

2013年春山里の花

2013年、桜の開花は例年より1週間早く咲きました。しかし、開花後は寒さが戻り、長く観ることが出来たようです。山里にも枝垂桜がぼつんとあったり、飛騨川水系の新緑、スミレやかアオイの群生など植物が本格的に動き始めています。4月のある日、農作業を一日休み、あちらこちら植物の観察に出かけてきました。



車で20分、山沿いの棚田にぼつんと枝垂桜があります。この桜は樹齢400年あり地元の方が長年大事に守ってきました。逆さ枝垂桜は夜間ライトUPで更に映えます。

飛水峡の溪谷が萌黄色に染まります。



スミレの種類は覚えきれないくらい数があります。左が「ニオイタツボスミレ」で午前中はニオイが強い花。中央は「ニオイスミレ」で白く小さな花。左は「ヒメスミレ」で可憐で小さな花。これ以外に「スミレ」「タツボスミレ」があり、この日は5種類の「スミレ」を確認できました。



かアオイの群生です。葉の裏にはギフチョウ(絶滅危惧種)が卵を植えつけることで知られています。群生を掻き分けてみると褐色の花が咲いていました。花は根元から直接生えており独特な匂いがします。ギフチョウはこれを嗅ぎ付けて飛来するのでしょうか。